

窓

「窓」に寄せる思い
（教育に寄せる心を開く小さな「窓」）
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

■平成19年度研修風景

基本研修



中学校経験者研修Ⅰ
・講義
「健康教育と安全教育」



高等学校初任者研修
・講話
「新採用教員に望むこと」



小・中学校初任者研修
・演習「自然体験活動」上・右下
・協議「2か月の教職体験を振り返って」下

職能研修



高等学校教務主任研修会
・講演・演習
「授業力向上
～校内における授業研究の在り方～」

専門研修

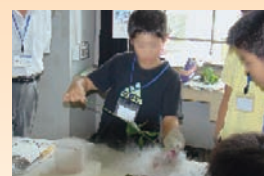


児童生徒理解を深める
学校教育相談講座
・講義・演習
「生徒指導・学校教育相談の
諸問題と対応」

自主講座



子どものためのロボットワークショップ



親子サイエンス教室

※平成19年上半期に実施された研修の中から、九つの研修についての講座紹介を所報ふくしま「窓」Web版 (<http://www.center.fks.ed.jp/mado/>) に掲載しました。ぜひ、御覧ください。



<第2回「授業分析の方法」>

研究調査チーム

1 授業分析とは

「より良い授業がしたい」、教師だったら誰もが思うはずですが、しかし、なかなか思うような授業にならないのが現実ではないでしょうか。なぜ自分の目指す授業にならないのか、どこにその原因があるのか、どのように改善すれば目指す授業に近づけるのかを探る手法となるのが授業分析です。

授業分析とは、「授業のできるだけ客観的かつ詳細な記録を作成し、これを分析し、授業ないし教育の実際の動きを把握しようとする一つの手法」（「授業研究大辞典」明治図書）です。授業分析では、記録から授業の各場面の児童生徒の学びの姿とその意味を深く読み取ることで、児童生徒一人一人の学びが成立しているか、授業展開が効果的であったか等を探っていきます。そこで、授業者は自己の授業を振り返り、改善に結び付けることができます。授業分析を繰り返し行うことが、授業スキルの向上につながります。

今回は、授業分析の視点と特徴、授業分析の手法例を紹介します。

2 授業分析の視点と特徴

授業分析には、「量的にとらえる」、また「質的にとらえる」、という二つの視点が求められます。

それぞれの特徴を理解し、目的によってどちらかに比重を置いたり、組み合わせたりしながら授業をより構造的に把握していくことが大切です。それでは、具体的な手法例の中でその視点を考えてみましょう。

○量的にとらえる視点

教師と児童生徒の発言や行動をカテゴリー化し、それらを数量化して分析するという視点です。量的に振り返ることにより客観性の高い、数値化したデータを用いて授業分析をすることができます。そのことにより、集団としての思考の推移や、教師の授業スキル等をとらえることができます。

○質的にとらえる視点

児童生徒の学習過程における認識の深まりや、内面の変化を追うことを目指した視点です。授業における学習目標や学習内容、学習活動、発問等の的確性を見ることができます。

3 授業分析の手法例とその方法

(1) ビデオ記録を活用した例

ビデオによる記録を再生します。

○相互作用分析〈量的にとらえる場合〉

教師や児童生徒の発言を用意されたカテゴリー（「発問」「賞賛と励まし」「応答」など）に従ってコード化しマトリクス表（記録表）にチェックします。逐語記録を用いることもできます。

分類集計、グラフ化した資料等を基に分析をして、成果や課題を見出します。

○再生刺激法〈質的にとらえる場合〉

教師と児童生徒がともに、ビデオを視聴しながら各場面での思考や判断を思い起こして質問紙に記入します。

教師と児童生徒の質問紙を授業分析の観点ごとに整理した資料（表や関係図）を基に比較分析をして、児童生徒の内面を探ります。

ビデオを使った授業分析には、これらの他に、

- 授業リフレクション …… 授業のVTRを視聴して、カードに「気になった事実（児童生徒の学びの姿）」とその「事実に対する解釈（コメント）」を記入して整理し振り返る方法。
- ストップモーション方式 …… 授業のVTRを、協議すべき場面で停止しながら進める分析法。
- 授業のカンファレンス …… 同一学年、同一単元の複数の授業をVTRに録画し、比較しながら分析・協議する方法。

など、様々な手法があります。上記は質的な分析手法に分類されますが、授業での姿を量的にとらえる側面も取り入れていくことで、より客観的で多面的な分析となります。

大切なのは、得られた情報を多様な側面からとらえ、授業をより深く考察し、授業改善に生かしていくことです。

(2) 参観者の記録(メモ・分析シート等)を活用した例

○KJ法によるワークショップ型授業分析(質的にとらえる場合)

授業観察による気づきや意見を付せん1枚につき1事項記入します。

模造紙上で同じような記述内容の付せんを貼り、グループに分けます。

グループごとに付せんを線で囲み、見出しを付けます。

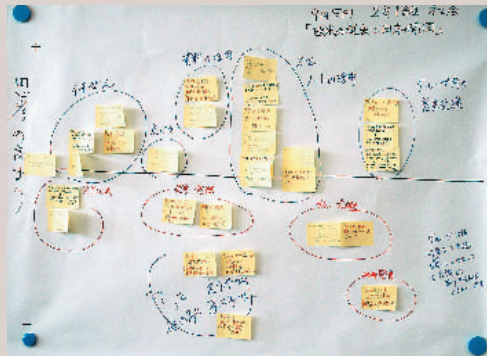
グループ間の関係を矢印等で示して構造化します。

分析の結果から得られた成果と課題をまとめ、その共有化を図ります。

…… 研究実践の紹介 ……

全国的に、校内研修の活性化が課題とされています。本チームでは、校内研修、特に授業研究の活性化について研究をしています。授業研究の事後研究会などにおいて、活性化を図る一つの手法として、ワークショップがあります。右の写真は、付せんを用いたKJ法によるワークショップで、授業分析を行ったときの様子です。「思考の高まり」というテーマで行い、参観者の書いた付せんを、同様の内容で集め、見出しをつけたものです。これを基に授業テーマについて迫ることができたかどうか協議しました。

ワークショップ体験者から、「構造化しながら、よい試みを広げる方策や工夫するための改善策をみんなで考えることができ、ととても勉強になりました。」などの声がありました。



4 日常的な振り返りを

これまで述べてきた授業分析の手法を生かしながら、日々の授業実践の中で日常的な振り返りをしてみませんか。以下のような日常的な振り返りの積み重ねがあつてこそ、授業分析も生きてくるものと考えます。

☆ 個人で

◆ 教材研究ノートを活用

教材研究ノートを用意して、簡単な授業構想を記入します。そこに、日記風に振り返りを書いていきます。自己の授業を自分で見つめるためのノート(日記)です。

◆ 授業を録音して振り返りに活用

ICレコーダーを用いて授業記録をとります。手軽に何度も聞いたり、パソコンに取り込んだりして聞くことができる利点があります。

☆ 同僚と共に

◆ 自主的に同僚に声をかけて

同僚に声をかけ、自分の授業を参観してもらいます。その後、時間を見つけて意見の交流をして課題を見出すことにより授業改善につなげることができます。

◆ 学校での授業実践レポートの活用

校内の組織で実践レポートを基に授業の振り返りをします。それぞれの先生が授業実践レポートを作成し、同学年(あるいは教科、ブロック)ごとに話し合うことで、自己の実践を見つめることができます。

◆ ちょっとした時間を見つけて

①「井戸端会議方式」

A学校では時間を見つけては互いの授業について語り合っています。「今日はB男がこんなことを言ったよ。B男の新しい一面を見つけたような気がする。」「なるほど、だからさっき廊下で擦れ違ったとき、いきいきした表情をしていたんじゃないかな。」……授業での児童の姿を語り合いながら、日々の授業を構想するのに役立っています。

②「この指、とまれ方式」

C学校では授業やその分析方法についてもっと勉強したいという声がかかるのですが、なかなか時間が取れませんでした。そこで、少人数で勉強会を開き、児童の学びについて、どんな観点で、どのように見ていったらいいのか学校のテーマに即して具体的に話し合いました。C学校では、この会を気軽に誰でも参加できるようにして、その輪を広げています。



人は、頭ごなしにしつ責されたり指導者の考えたやり方を強要されたり、話を聞いてもらえずに一方的な指導をされたりすると、人はやる気をなくし、い縮めてかえってミスが増えることがあります。指導者への不満が残ることになり兼ねません。とにかく、「自信を持たせ、自主性を引き出し、自分の考えで自分から行動する人を育てる」といったモチベーションのアップが必要です。日常のコミュニケーションの取り方においても、コーチングの考え方を取り入れ、教員や児童生徒のやる気を引き出してはどうでしょうか。

Q1 「コーチング」とはなんですか。

コーチの語源は、タイトルのさし絵にあるように馬車を意味します。乗っている人を目的地まで運んでくれることが転じて、コーチングとは「相手の能力を引き出しながら、自発的な行動を促すコミュニケーションスキル」であり、相手の目標達成のためのプロセスと言われています。ポイントは、聞き手が、話し手である相手の話をじっくり聞くことです。何か助言をしなければならないなどと考えずに、とにかく聞くことに努めましょう。その上で、話し手の能力を引き出す「質問」が大切です。聞き手からの質問により、話し手は話の中身が整理でき、新しいことを発見して、自分自身で答えを見つけ出せるようになります。

Q2 コーチは、何に視点をあてて「質問」をすればよいのですか。

コーチングによって、次の5点について明らかにします。コーチングする内容、話し手によっても異なりますが、各視点に適する質問例を提示します。

目標の明確化：「あなたの目指す明るい学級は、どんなイメージですか。」
目標を自分自身の言葉で具体的に表現させます。

現実把握：「あなたの理想と比べると、今はどんな様子ですか。」
理想とする目標と現実とのギャップである問題を正しく把握させます。

資源の発見：「そのやり方に長けている人はご存じないですか。」
目標達成のために必要なものは何かを探ります。人、金、物、情報、時間がこれにあたります。

選択肢の創造：「それはよい方法ですね。他にありませんか。」
これまでのやり方を違った視点で考えさせることが必要です。「〇〇はこうあるべき」という固定観念を捨て、自由な発想で選択肢の幅を広げることも必要です。

目標達成の意志：「その部分を修正した指導案はいつまでできあがりますか。」
「いつまで」「何をやるのか」を自分なりの言葉で述べさせます。

Q3 「コーチング」を行うことにより、相手はどんな成果が得られますか。

- ①目的や目標達成のイメージが具体的になります。
- ②目標達成に向けて、計画が立ち、継続的に行動することができます。
- ③今までの悪い習慣を改善し、良い習慣を身に付けることができます。
- ④やる気が出て、行動に集中できます。
- ⑤話すことによって、ストレスが解消・軽減できます。
- ⑥自分が必要な存在だと感じることができます。

Q4 「コーチング」と「ティーチング」の違いは何ですか。

引き出すことがコーチングであれば、ティーチングは教え込むことです。たとえば、教職の経験の浅い教員に対しては、必要な知識や技能を教え込むという「ティーチング」の発想も必要でしょう。聞き手には、相手の状況や能力を的確に判断し、「コーチング」と「ティーチング」のどちらにするかの判断とともに、適切に使い分けことが求められます。

Q5 「コーチング」についてもっと詳しく知りたいのですが。

※「コーチング」についての詳細は、所報ふくしま「窓」Web版 (<http://www.center.fks.ed.jp/mado/>) を御覧ください。

＜参考文献等＞

- 「コーチングセミナー」 福島県教育センター「教員のやる気を引き出すコーチング講座」資料（有限会社クレメンティア、2007年8月23日1版発行）p.5,8,10,13,14
- 「学校におけるコーチング 第1巻コーチングとは」 学校におけるコーチング研修教材（製作・著作：独立行政法人教員研修センター）

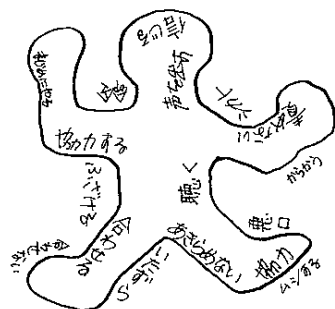
児童生徒の豊かな学びを支えるために

教育相談チーム

1 学校全体で「予防・開発的教育相談」の推進を

今、学校には、問題行動への対応ばかりでなく、問題行動の未然防止や居心地のよい学級づくりを支援するための「予防・開発的教育相談」が求められています。教育相談チームでは、「生きる力を育てる授業実践プログラム」を作成し、生徒指導・教育相談等の講座においていただいた先生方に配付しています。今回、新たに「集団の団結力を高める」とともに「集団生活のルールの確立」を目的として、「プロジェクト・アドベンチャー」の理念と手法を活用したプログラム『みんなでチャレンジ!』を作成しました。この『みんなでチャレンジ!』を活用した授業の様子と授業案等を、所報ふくしま「窓」Web版で紹介しています。どうぞ御覧ください。

なお、「プロジェクト・アドベンチャー」とは、次のような活動です。



「プロジェクト・アドベンチャー」の授業の成果物『ビーイング』

「アドベンチャー（冒険活動）によって、お互いに協力し合う雰囲気醸成される」ことに注目して開発された教育手法です。アドベンチャーには「身体のアドベンチャー」と「心のアドベンチャー」の二つがあり、「心のアドベンチャー」とは、「これまでの自分の考え方を変えること」、具体的には「勇気を出して意見を述べる」、「苦手な人に話しかける」等の行動を指します。

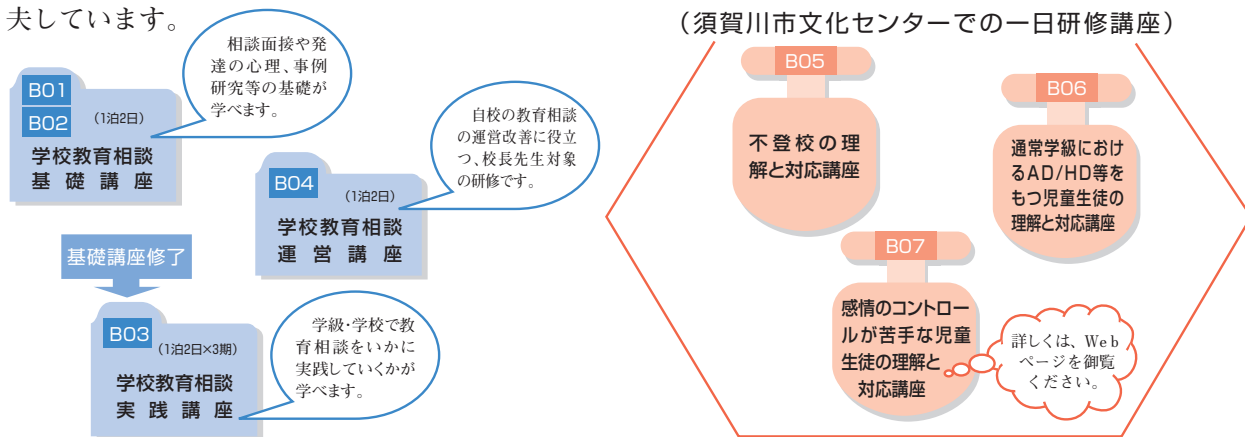
基本理念は「フル・バリュー・コントラクト（最大限の相互尊重）」と「チャレンジ・バイ・チョイス（やるかどうかは自分で決める）」の二つで、この基本理念を具体化したのが『ビーイング』と呼ばれる活動でありその成果物です。できあがった「ビーイング」を、「学級のルール」として教室内に掲示し、必要に応じて確認することで、以後の「節度ある学級づくり」に生かすこともできます。

1単位時間の基本的な流れは、「アイス・ブレイク（緊張ほぐし）」→「インストラクション（課題や方法の説明）」→「アクティビティ（主活動）」→「振り返り」です。活動の途中で「混乱」や「対立」が生じることもありますが、それを自分たちで乗り越え、達成感を味わうことで、団結力が高まります。

2 専門研修講座で生徒指導・教育相談の力量アップを

☆下記の講座は、生徒指導・学校教育相談に関する専門研修講座です。

☆どの講座でも演習や協議を取り入れるなど、研修内容を学校の様々な場面で生かしていただけるよう工夫しています。



3 困ったら、迷ったら、まずは相談を……お電話ください

- 対象 幼児・児童生徒・保護者・教員
- 相談日時 [電話相談] 9:00～17:00（月～金）
[来所相談] 月・水・金（電話等による予約制）、①13:15～または②15:00～（90分間）
[訪問相談] 訪問相談員が、学校や保護者からの要請に応じて家庭訪問等をします。
（*文部科学省委託事業「問題を抱える子ども等の自立支援事業」の一環です）
- 受付等 福島県教育センター教育相談チーム（024-553-3141）【代表】
*相談専用フリーダイヤル（0120-45-3141）【直通】

☆各学校や小・中・高等学校教育研究会、生徒指導連絡協議会等が主催する生徒指導・学校教育相談に関する研修会や事例研究会等の支援もしています。お気軽に御連絡ください。

カリキュラムセンター通信

続報!!平成19年度福島県教育研究発表大会の概要が決まる

平成20年1月25日(金)に須賀川市文化センターを会場として開催いたします県教育研究発表大会の概要が決まりました。午前の全体会においては県内小・中学校、高等学校の優れた共同研究並びにセンター研究調査チームの共同研究を各1本ずつ、午後の分科会においては三分科会に分かれて各4本、合わせて16本の共同研究、個人研究の発表を行います。

昨年度は会場が二施設に分散したため、参加された先生方に御不便をおかけしましたが、今年度は須賀川市文化センターを会場に大ホール、小ホール、展示室を使用してワークショップ形式で分科会を行いますので、館内の移動だけですみます。また、ゆとりをもった時間帯の中で、自分が関心を持つ研究発表を選んでの参加が可能です。各学校

の様々な教育課題の解決に向けての確かな方向性を探るため、あるいは、次年度の教育課程の工夫・改善に向けてのヒントを得るため、多くの先生方の参加をお待ちしております。

なお、第二次案内につきましては11月下旬に各学校に配付の予定です。研究発表テーマ等の詳しい内容につきましては二次案内を御覧ください。



◇期 日 平成20年1月25日(金)

◇会 場 須賀川市文化センター

10:00 10:15 12:10 13:00 15:40

受 付	開 会 行 事	全 体 会	昼 食	分 科 会	閉 会
		○センター所員研究 ○小学校共同研究 ○中学校共同研究 ○高等学校共同研究		①校種共通の部 ②小学校の部 ③中学校・高等学校の部 ※ワークショップ形式	

カリキュラムセンター通信でお知らせした内容につきましては、Web版所報ふくしま「窓」または、Webページ「カリキュラムセンター通信」(<http://www.center.fks.ed.jp/O3curriculum/news/>)にさらに詳しく掲載してあります。御覧ください。

実践に役立つ教育資料のご紹介

校内研修ハンドブック—授業研究の充実を目指して—

京都府総合教育センター(2007年3月)

このハンドブックは校内研修(授業研究)の企画・運営の事例から、効果的な校内研修が行われるための手法や参考例を提供することに主眼が置かれて作成されています。授業研究会で参加者全員が意見を出しやすくする工夫や、授業の公開の仕方の工夫、また、そのための省力化や効率化について具体的に述べられており、校内研修を深めるための参考となると考えます。

歴史学習における小中連携プランの実践と考察—「天下統一」を事例として—

東京学芸大学附属学校研究会(2007年5月)

「天下統一」という社会科の具体的な歴史学習事例を通して、小・中学校での授業の在り方について考察が行われています。その結果、明らかになったこととして、①小学校では、ある歴史的事象に身を寄せ、そこから人物像や時代像を豊かにしていくこと、②中学校では、対外関係等のより広い視野から時代像を構築し、価値認識にも迫っていくこと、の2点が述べられています。社会科という教科の枠を超え子どもの発達段階に沿った指導という点で、今後の小中連携の際の視座となるのではないのでしょうか。

*その他、教育センターに寄せられた研究紀要や教育資料から五つをWeb版所報ふくしま「窓」にて紹介しております。

所報ふくしま「窓」Web版(<http://www.center.fks.ed.jp/mado/>)

編集発行/福島県教育センター
〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16 TEL.024-553-3141 FAX.024-554-1588 <http://www.center.fks.ed.jp/>
印刷所/株式会社阿部紙工
〒960-2195 福島市庄野字柿場1-11 TEL.024-593-5111 FAX.024-593-5740

 
この冊子は、古紙配合率100%白色度82%再生紙を使用し、環境にやさしい大豆インキを使用しています。